

動画像による記録方法の研究 伝統技術、民俗芸能、祭礼の記録作業体験から得られた撮影・編集方法

Recording Festivals, Folk Arts and Traditional Crafts by Moving Images

孝寿 聰

はじめに

- ①体験1 映像資料批判を行う
- ②体験2 伝統技術の映像記録の実験制作
- ③体験3 伝統技術の映像記録の本格的制作
- ④体験4 民俗芸能の映像記録の制作
- ⑤体験5 祭礼の映像記録の制作
- ⑥体験6 民俗芸能の芸態映像記録の制作
- ⑦映像記録の企画案から

おわりに

【論文要旨】

映像の特質はフィルムやテープのなかに記録された時間が現実的なものの可視的フォルムを獲得している点にある。一度記録された現象はいつでも同じ重要度でまったく変わることない客観的現実として知覚することができる。映像において時間はもっとも基本的な要素である。同時録音技術の進んだ現在、映像は同時に可聴的時間としても同じように知覚される。この特質を生かす時、映像記録は他の方法では得られない高次元の記録方法となる。博物館映像学研究所 (Center for Research on the Use of the Moving Image in Museums, inc) は無形の文化、祭礼や民俗芸能、伝統的な技術の映像記録を行ってきた。

その実際の制作体験に基づいてこの特質を生かした記録撮影の現場で行うトレス撮影の技法や記録資料として時系列に沿って編集構成する方法を体験レポートとして紹介している。

- 体験1 映像資料批判を行う
- 体験2 伝統技術の映像記録の実験制作
- 体験3 伝統技術の映像記録の本格的制作
- 体験4 民俗芸能の映像記録の制作
- 体験5 祭礼の映像記録の制作
- 体験6 民俗芸能の芸態映像記録の制作